

つどう

まなぶ

むすぶ

福井市の公民館



東安居
公民館



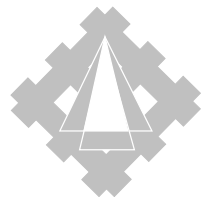
明新
公民館



国見
公民館

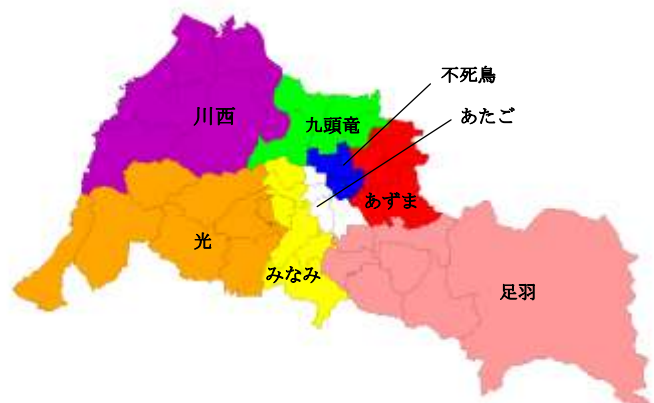


第4号



福井市公民館一覧

ブロック	No.	館名	所在地	電話番号	掲載号	ブロック	No.	館名	所在地	電話番号	掲載号
あたび	1	木田	木田1丁目1401	36-0042		光	28	安居	本堂町7-4	37-1234	
	2	豊	みのり3丁目106-8	34-0344			29	一光	下一光町6-5	37-0168	
	3	足羽	足羽2丁目12-31	35-0041			30	殿下	風尾町1-13	97-2377	
	4	湊	学園1丁目4-8	22-0032			31	越廼	栄崎町1-68	89-2182	
不死鳥	5	春山	文京3丁目11-12	22-0057	2号		32	清水西	大森町20-43-1	98-4560	
	6	宝永	松本4丁目8-4	22-0036			33	清水東	三留町14-11-1	98-4510	
	7	順化	大手3丁目11-1	20-5458			34	清水南	風巻町21-17	98-4590	
	8	松本	文京1丁目29-1	22-0085			35	清水北	グリーンハイツ5丁目131	98-5477	
	9	日之出	四ツ井1丁目7-24	54-0040			36	大安寺	四十谷町5-20-1	59-1001	3号
	10	旭	手寄2丁目1-1	20-5364			37	国見	鮎川町195-7	88-2004	4号
	11	日新	文京5丁目1-8	21-7225	3号	川西	38	鶉	砂子坂町5-58	83-0433	
みなみ	12	清明	下荒井町8-414	38-0043			39	棗	石橋町4-14	85-1495	
	13	東安居	飯塚町6-18	35-9566	4号		40	鷹巣	蓑町16-2-1	86-1001	
	14	社南	種池2丁目206	35-9559			41	本郷	荒谷町19-55	83-0582	
	15	社北	若杉4丁目308	35-9111	創刊号		42	宮ノ下	島山梨子町22-9	59-1150	
	16	社西	久喜津町65-23	34-7910	2号		足羽	43	酒生	荒木新保町37-9-5	41-2503
	17	麻生津	浅水三ヶ町1-93	38-4383		44		一乗	西新町1-31	43-2001	
あずま	18	和田	和田東1丁目1504	22-0038		45		上文殊	北山町34-1	41-0516	3号
	19	円山	北今泉町7-12	54-0048		46		文殊	太田町4-11-2	38-0550	2号
	20	啓蒙	開発1丁目2105	54-0046		47		六条	天王町43-4	41-1001	
	21	岡保	河水町10-13	54-2519		48		東郷	東郷二ヶ町6-13-1	41-0306	
	22	東藤島	藤島町48-1-1	54-0039		49		美山	美山町2-12	90-7111	
九頭龍	23	西藤島	三郎丸1丁目1410	22-0040		50	中央	手寄1丁目4-1	20-5459	創刊号	
	24	中藤島	高木北2丁目1001	54-0045							
	25	河合	川合鷺塚町9-18	55-0001							
	26	森田	下森田藤巻町2	56-0195	創刊号						
	27	明新	灯明寺町35-1-1	22-7880	4号						



《福井市の公民館に思う》



福井市の公民館の益々の充実発展を！

前福井市中央公民館長

川 端 喜 彦

私は長く教職についていましたが、文部科学省が「全国学力・学習状況調査」を始めたところ、本県が連続して全国トップクラスの成績を示し、全国各地から学校へ視察に来られるようになりました。また、私の勤務校（明道中学校）へは茨城県から派遣された先生が1年間、研修に来ていました。

視察に来られた方々は、「学力向上の秘訣は何ですか」「具体的な取組を教えてください」と矢継ぎ早に質問されます。しかし、この学力調査のために特別に取り組んだこともなく、「学校として当たり前のことを当たり前に取り組んでいます」と答えていました。そして、授業参観をしていただき校長室へ戻って来ると、みなさん一様に「授業が違う」「先生と生徒が一体となり授業に集中している」「掃除が行き届き校舎がきれい」「あいさつが素晴らしい」等々と言われました。そして質疑応答の中で、これまで私たちが当たり前として取り組んできたことが、他県から見ると真似のできない特別なことであるということが分かってきました。そこで、当たり前と思っていたことをしっかり見直し、その教育的価値をしっかりと自覚し大事にしていくことの大切さを痛感しました。

公民館へ勤務させていただくようになって、地区公民館訪問及び行事参加、県内外の公民館視察、県外からの視察対応を通して学校教育で感じたことと同じことをより強く感じました。これには第2号佐藤藤枝氏、第3号坂上泰学氏の言葉にもありますように、先輩の皆さん方の大変なご努力があつてのことと思っています。半官半民の体制を維持し地域社会に密着し、社会教育・生涯学習の拠点として果たしてきた役割及び成果は計り知れないものがあると思います。公民館の運営審議会の皆さんは公民館運営の審議にとどまらず、各団体を代表してお互い連携協力し、各種行事に取り組むことで大きな成果をあげてきました。そのことにより、今日まで公民館が地域社会の中核としての機能を持続できたものと思っています。

国立教育政策研究所では、地域とともにある学校推進政策作成の一環として本市（光陽中学校区）へ視察に来て、その報告書（平成27年3月）の中で、「1小学校区に1公民館が配置されている。公民館は各種団体が集まって運営審議会を作り運営されているため、公民館に話を通すと連携がしやすいという状況がある。公民館でのボランティア活動を行うようになってから、生徒の社会性や自己有用感、自尊感情の育成につながり、また、地域への愛着も深まってきている。」など現在の公民館と学校が連携協力した取組を高く評価しています。

また、放送大学の広報誌を届けに市内全部の公民館を回った職員の方が、「福井市の公民館の主事さんはすごい。意識が違う。勤務する公民館と地域に誇りを持ち仕事に取り組んでいる」と感想を言いに駆けつけてくれました。

「ほやほやみつけ隊」（NHK）、「公民館のお宝拝見」（福井新聞）などを通して、公民館が地域社会の文化、社会教育・生涯学習の中核施設としての役割を十分に発揮してきたことを実感しています。

社会教育・生涯学習は変動の時を迎えていますが、「不易と流行」福井市の公民館で当たり前に取り組んでいるものには、他では一朝一夕には真似のできない素晴らしいものがたくさんあります。時代の流れで変革の必要なものもあろうと思いますが、福井市の公民館が当たり前にしてきたことを広い視野からとらえ直し、しっかりその価値を自覚し大事にしていくことこそが福井市の公民館の益々の充実・発展に繋がるものと強く思っています。皆様方の益々のご活躍をお祈りいたします。

出会ってめいしん 育ててめいしん

— 未来を担う人を育て、まちを育てる —

明新公民館

1 地区の概要



福井市の北部、九頭竜川の南側に、芦原街道をはさみ、東西に広がる地区である。古来より九頭竜川を利用した漁業や農業

を生業とし、古い歴史を有する地区と近年住宅地として著しく発展してきた地区で構成され、舟橋新・灯明寺・新田塚・二の宮の四地区から成り立っている。現在は、約 16,000 名が居住し、人口では市最大の地区である。昭和 46 年に明新小学校が開校し、その通学区域が明新地区となった。「明新」の名は、中国の古典「大學」にある「明德を明らかにし、民を新たにす」と、松平春嶽公の明新館記の中の「夫れ明新の義たる大なり」から名づけられた。

公民館は、昭和 50 年に開設され、平成 19 年に現在の地に新築された。平成 7 年に「出会ってめいしん 育ててめいしん」のキャッチフレーズができ、平成 11 年に明新の頭文字「M」を図案化したシンボルマークが公募によりできた。

2 公民館の特色ある取組み

(1) 若い世代の学びへの意欲

明新地区の子どもたちは、小学校卒業後に 4 つの中学校に分かれる。このため、地域の青年活動はなかなか成り立たないのが現状であった。

平成 27 年度に、「公民館を拠点として地域と関わりながら活動したい」「進路の違いで離れてしまう仲間と共に活動し、新たな仲間作りもしていきたい」という若者の声を反映して、2 つの異なる世代の青年グループが立ちあがった。各グループの企画・運営はメンバーが行い、あくまで自主的な学習活動を促している。さらに、活動報告などを広報紙や SNS で積極的に地域に発信することで、新たな人材発掘も進めている。

活動は青年グループのメンバーだけではなく、地区民にも参加を呼びかけている。地域に応援され、認められていると思うことが、若者たちの自信に繋がると考え、参加した先輩方には、青年たちを温かい目で見

守ってほしいとお願いしている。また、学習活動の講師も若い世代が多い。若者が若者を盛り上げ、応援することが大事であると考えている。

◎「おとなのがっこう」は、学びのワンダーランドをテーマに、毎回様々な講師を招いて、生活に役立つ情報やちょっと視野の広がる話とともに、参加者同士の交流と学びの場を作りたいと青年グループが発案した。時には、お茶とお菓子で和やかな雰囲気の中で、たまには場所を変えながら、シンポジウムやゼミ形式で行っている。

◎「明新夢マップ作り」は、地区内の魅力を再発見し、地区民に紹介する意図で、青年グループが企画して進めている。内容は、ウォーキングアバウトにより、気になったものを写真に撮る。参加者同士で写真を見せ合う中で知らなかった店やお勧めの公園、好きな場所等をマップに張り付けていく。祭りなどで、地域の人たちにも呼びかけ、お勧めのスポットを書きこんでもらいながら、マップの充実を図っている。「住んでいるまちで暮らしを楽しむためのなにか」探しのマップになればと考えている。



【明新夢マップ】



【マップ作り作業】

(2) 「子育てしやすいまちづくり」を目指して

「家庭教育・子育て支援事業」として幼児から小中学生の母親を対象とした「ポシェット」と、乳幼児の親子を対象とした「ころころくらぶ」の 2 グループの活動を中心に行っている。

◎「ポシェット」は、家庭で抱える悩みや問題の共有・解決、また自己研鑽や仲間作りを目指して、母親たちが自主的に企画・運営を行っている。10 名の運営スタッフを中心に計画を立て、募集チラシを作成し、地区

内の小学校・幼稚園に配布している。未就園児の託児もあり「安心できる」ことを広く呼びかけている。母親たちの学びの講座の他、地区民も参加できる公開講座、親子のふれあい事業、文化祭での模擬店出



【キャラ弁作りと作品】

◎「ころころくらぶ」は、「親子が気軽に集える場が欲しい」という1人の母親の声から、乳幼児の親子が集う情報交換・交流の場として始まり、現在は毎年50名程の登録がある。人気の親子体操やベビ



【親子体操】

赤ちゃん訪問の際に配る募集チラシや参加者の口コミ、携帯のメールアドレス登録による情報発信の充実により、地区外も含めた参加者は、着実に増加している。

イベント開催の他にも、自由遊びのための公民館和室開放、児童館子育てひろばの充実、子育て支援委員や保健衛生推進員による託児や母親の話し相手など、各団体が連携し子育て支援事業を展開している。地区には転勤族が多く、核家族化で孤立しがちな母親たちにとって重要な役割を担っている。

3 公民館と地区の連携事業

—歴史と文化の地域交流—

「太平記」にも記されている、新田義貞の戦没地「燈明寺畷」（現新田塚）の史実を生かしたまちづくりのために、生誕地の群馬県太田市新田地区との

「歴史と文化の地域交流会」を平成16年より毎年開催している。明新地区と太田市新田地区の児童の交流を主にした内容で、両地を交互に訪れている。

平成27年度は、明新地区の児童約30名と「明新まちづくり委員会」のメンバーが太田市を訪れ、当地の



【太田市「新田義貞像」前で】

児童と一緒に、太田市の歴史や文化の学習、交流会等を行った。参加児童からは「新田義貞のことや群馬県のことがよくわかった」「太田市の子とたくさんふれあうことができた」等の言葉が聞かれた。

貴重で思い出深い経験であったことが伺える。この経験が、参加者の郷土に対する愛着とまちづくりの意欲を育むことに繋がっていくと期待している。

公民館は、企画段階から準備に関わり、交流会当日にも職員1名以上が参加することで、事業に尽力している。今後は歴史だけでなく他の分野を含めた市レベルの交流に発展させていきたいと考えている。

4 終わりに

明新公民館の特色は、「人材育成」であると思う。「青年グループ」も「ポシェット」もそうだが、「健康長寿学習明新大学」もメンバー自身が企画・準備・運営を行い、学習活動を展開している。実際に学習会の企画を経験したメンバーは、別の所属グループでもその経験を生かすことができる。老若男女を問わず、公民館でやってきたこと、経験して得た自信がさらに広がっていくことを願っている。

「出会ってめいしん 育ててめいしん」のもと、地区内外を問わず、明新地区で集う人との出会いを大切に、人と繋がり、自分を育て、地域で子どもを育て、そして地域（まち）を育てるために、公民館としての役割をさらに推進していきたい。

「人材育成」を公民館の使命と捉え、様々な場面で、実践してきていることが、着実に成果をあげ、参加者の自主的な企画・運営につなげていること、そしてそれが、次々と受け継がれ、広がっていったことが素晴らしいと思います。

地区の活性化に挑む“国見”

— 日本海と国見岳に抱かれて —

国見公民館

1 国見地区の概要



【地区の名所『ブルーシー鮎川』】

国見地区は福井市の西端に位置し、東は国見岳を隔てて本郷、安居地区に連なり、西は国道305号を挟んだ日本海に面している。海の穏やかな時節には漁火や夕日が絶景で、風光明媚な越前加賀国定公園に沿った自然に恵まれた海岸地帯である。また、南は海に沿って越廼地区菜崎町、蒲生町に連なっている。北は鷹巣地区を経て、三国町及び福井市中心部に通じている。

福井市の中心部からは約30km、公共バスで約50分の地にある。東西の距離は5.4km、南北は5.1kmあり、地区の自然地形により海岸に沿って集落が伸びており、交通機関も磯伝いに発達している。

昭和34年以前に丹生郡国見村であった国見、鮎川、白浜、大丹生、小丹生が、福井市に編入し、この5町で国見地区自治会連合会を形成している。

平成28年1月1日現在の世帯数は419戸、人口は1,105名（男493名・女612名）である。

2 公民館の活動

(1) 「源平ゆかりの地三地区」との交流

(石川県津幡町・長野県木曾町・市国見地区国見町)

1183年（約830年前）、倶利伽羅峠で源氏に敗れた平家は、加賀・越前の海岸に沿って敗走を続けた。

古来より国見地区は戦乱の余波もなく平和な集落であり、戦いに敗れた落人を受け入れ定住させた。この史実は、地域の人々の鷹揚な人間性を物語っている。



【830年の時を超えた三地区との交流】

「源氏『木曾義仲』が育った地（木曾町）」と「『源平合戦』を繰り広げた地（津幡町）」、そして「平家が落ち延びた地（国見町）」の三地区が、数年前から交流会を行っている。

この交流会は三地区持ち回りで開催し、今年度が4回目である。古くには敵対する源氏と平家であったが、今では、悠久の縁あればこそその事業となっている。

今後はこの交流の中で、お互いの「まちづくり等」について歴史に沿ったテーマを決め、学ぶことにしている。

(2) 少年教育・郷土学習事業「ふるさと探訪」

平成5年より、小学3・4年生と中学2年生を対象に、国見地区内外の歴史探訪事業を行っている。小学生は、主に地区内の歴史旧跡を巡り、中学生は国見岳を中心に近隣地区の歴史にも触れながら、「ふるさと国見」の歴史を体感している。

事業終了後の児童生徒の感想文では、小学生は郷土を知る礎になり、中学生は悠久の歴史を体感できた様子が生き生きと書かれていた。将来を担う児童生徒が地域の歴史を継承し、見聞する大切さをこの事業から学んでいる。

【森本家にて源平合戦の説明】



(3) 青年教育事業

「国見地区『青和会』と中学生との語る会」

毎年、国見中学校の卒業式後に、「青和会」（22歳から40歳が会員）の役員が、卒業生に「激励」と「記念品」を贈呈する『青和会と中学生との語る会』を開催している。

【青和会会員から中学生へ記念品贈呈】



この事業は、多様な意見や考えに触れる機会が少ない中学生に対して、市内の高校に通ったり、地区外に転出したりしている諸先輩から激励をして貰っている。この事業が卒業生にとって、夢と希望に満ちたものになるよう、今後も継続していきたい。

(4) 子育て支援委員会「通学路一斉点検」事業

—共催「青少年育成福井市民会議国見支部」—

国見地区の通学路を自治会連合会が中心となり、毎年7月第1土曜日夕方に、各自治会代表者、公民館、小・中学校、両PTA、保育園、保護者会、実年会、老人会、育成会、駐在所等、各団体の代表者約60名で危険箇所がないか点検を継続している。危険箇所がある場合、その後の反省会議で点検項目ごとに協議し、善処する対策をとっている。

3 地区の事業

—「来て見て国見フェア」まちづくり支援事業—

(自治会連合会/小・中学校/公民館との連携)

当地区は、祖先の残した文化や行事、平和な伝統を誇りとした伝承行事が現在も受け継がれている。しかしながら、近年少子化・高齢化が著しく、地域の構造を抜本的に見直さねばならない課題に直面している。

このような状況の中、自治会連合会が主催する「国見地区まちづくり協議会『いきいき国見』」は、平成23年から「来て見て国見フェア」の一大イベントを開催している。

更に平成25年、市が推進する「まちづくり交歓会」をきっかけに、全員参加型の「地域づくり」の機運が高まり、大人に交じって国見小・



【名物「筏の瀬渡し」】

中学校の児童生徒が企画立案した事業を、ステージ上で披露し、多くの来場者の注目を集めている。

イベント当日は、小・中学生のボランティアを含め総勢130名で運営。その内容は海に関する体験（筏の瀬渡し・海女桶体験・魚の掴み取り体験・遊覧船etc）

と、地元で採れた食の出店が列を並べ、約3,000余名の来浜者で大盛況となっている。

地区住民で企画運営しているため、地域を盛り上げる意識を大いに発揮しながら様々なアイデアが出され、スタッフ全員が活気に満ちたイベントとなってきた。また近隣地区からの出店も増え、年々規模が大きくなってきている。

4 他地区との連携事業

—国見・殿下・越廼の三地区での「まちづくり」—

平成27年12月、越前海岸三地区（国見・殿下・越廼）が、国定公園である越前海岸の風土や、培われた地域と文化を生かして、住民主体のまちづくりを実現するため、「福井市西地区まちづくり協議会」を



【協定書に調印】

発足した。これは、三地区の住民の参画と協働により、「まちづくり」の発展に寄与することを目指しており、自治会連合会長3名の連署で協定書に調印した。今後、公民館も諸団体と連携しながら、積極的に推進していきたいと考えている。

5 終わりに

地区の過疎化は将来を不安視するだけでなく、長い歴史の流れの中で、先人が残した尊い文化や遺産を継承しつつ、解決策に向けて発想を転換し、新しい方向性を目指すべきである。

幸い地区の事業の中には、5町内全住民の協力と団結力にて推し進められている事業が数多くある。

公民館は生涯学習の場のみならず、地域コミュニティの場としての役割を認識し、地区に根差した公民館事業を展開して地域の中での繋がりと、次代に新たな可能性が生まれるよう、日々努力しなければならない。

源平合戦の様々な史実の中でも、当時の住民が平家の落人を定住させた内容は、地域性を的確に物語っており、感慨深く感じます。このような歴史や文化に誇りと自信をもちながら、地域の活性化に向けて、新しい方式で取り組んでいくことを期待しています。

未来のまちづくり、人を育てる住みよい地区をめざして — 子育て支援・青少年健全育成と若者の自立支援 —

東安居公民館

1 東安居地区の概要



【下市山ミルキングコースからの眺望】

福井市の西部地区、中心部から約4 km 位のところに位置している。大型ショッピングセンターがあるかたわら水田が広がり、地区の西の端には、里山「下市山ミルキングコース」があり、春にはカタクリの花が群生し県内外から多くの人を訪れている。また、地区内には、日野川・足羽川・狐川・底喰川の4つの川があり、山と川・四季折々の野鳥・草花など自然との融合・協調が可能な地区である。

明治の中ごろから、福井市の消費者に新鮮な野菜を供給しており『福井市の台所』としての地位を確立し、ほうれん草を中心とした軟弱野菜・トマト等を生産している。ほうれん草は指定産地となっている。

平成28年1月1日現在で、世帯数2,805世帯、人口6,943名(男3,416名 女3,527名)となっている。

2 子育て支援と青少年健全育成

(1) 子育て支援委員会による事業

地区の児童館、保育園、保健衛生推進委員会など子育てに関係する団体等と連携し、子どもの成長過程に合った施設利用や支援を受けられる環境作りに取り組んでいる。その中核が0歳から就園前の親子を対象にした子育てサークル「プチとまと」で、母親の仲間作り、情報交換、地域住民との交流の場となっている。母親の中から、2~3名のリーダーを決め、要望を取り入れ年間計画を一緒に考えている。また、イベント時における受付や会場作りなどの手伝い、公民館まつりでの展示作品作りなどへの自主的な参画を促している。

(2) わが町のスケットさん

子育て支援事業に欠かせないものとして「わが町のスケットさん」制度がある。団体や所属などの枠に縛られることなく、個人でも気軽に協力していただけるように、平成13年度に立ち上げられたボランティアの人財バンクである。得意分野を生かして講師に、空き時間を利用して子守りに、しゃべり場では子育ての知恵やヒントをアドバイスするなど、“できる時にできる範囲で無理なく楽しんで”をモットーに活躍している。こういった地道な活動を“細く・長く”続けていくことが、地区の子育て支援サイクルが丸く(輪・和)繋がっていき大事な要素の一つとなっている。

スケットさんは子育て支援事業だけでなく教育事業や地区事業にもなくてはならない存在である。活躍の場があり充実感・達成感を得ることでスケットさんたちは生き生きと輝いている。



【プチとまとのクリスマス会】

【スケットさんとむかし遊び】

(3) 地域の宝「ひがしあごっ子」を育てる

地区の東安居小学校に通う児童を対象に、自然体験(農業・エネルギー・観察)や交流(異学年・異世代・他地区・国際)、創作体験(クラフト・陶芸)などを行っている。そこから得る人とのふれあいや豊かな経験から、子どもたちに内在する「生きる力」の醸成を図ることをねらいとしている。学校や家庭とは一味違った環境で遊び・学ぶことで、子どもたちの経験値を増やし、豊かな心や思いやりの心を育てたいと考えている。

また、地域の活動団体とも連携・協力し、幅広い年代層との交流や結びつきを深めることで、子どもを地域で見守り育てている。特にジュニアリーダーズクラブ(中高生対象JLC)やシニアリーダーズクラブ(青年対象SLC)との交流は、子どもたちが中高生や青年

らの活動を間近に見ることで親近感や憧れを抱き、それがやがて地域の一員としての意識に繋がっていく。ひがしあごっ子の中には「プチとまと」の頃から公民館に出入りしていた子どもも多く、こういった幼小中高と一貫した活動や長い目で子どもたちを見守ることが東安居地区の青少年健全育成の特徴であるといえる。

3 若者の地域参画

(1) 中高生の居場所づくり

中学生・高校生の居場所づくりとして、JLCがある。月一度の例会に加え、夏まつりや敬老会、公民館まつりといった地域事業や、児童や他地区との交流事業などに積極的に参画している。学校生活や家庭では経験できない体験、異年齢・異世代との交流など、様々な経験を積み、たくましく成長している。こういったJLCの活動は20年以上途切れることなく続いている。中高生は勉強や部活に忙しく、フルメンバーがそろうことはなかなかないのが現状であるが、スケッチさん同様、できる時にできる範囲で無理なく楽しく続けてもらっている。地区夏まつりでの段ボール迷路は、まつりの一週間前から組み立て作業を始め、中にはクイズを仕込むといった、時間も労力もかかるものだったが、同じ時間を共有することで、仲間としての意識が高まった。また、終わった後の達成感は次への原動力となっているようである。



【念入りな打ち合わせ】



【段ボール迷路の前で】

(2) 地域に根付く青年グループ

JLCのOBによる青年グループがSLCとして活動している。「JLCでやり残したことがある」、「自分たちが子どもの頃楽しかったことを子どもたちに伝えたい」という思いで教育事業や地区事業に積極的に参画する他、地区の子どもたちを対象にした自主企画運営するイベントも年に数回行っている。なかでも「合同クリスマス会」は地区の団体とも連携しており、子ども目線に立った企画内容で、大勢で活動・交流することの楽しさを伝えており人気のイベントとなっている。

また、JLCと子どもたちをつなぐ企画を考え、後輩であるJLCに対しても、意識高く育成活動を行い、自分たちが先輩から受け継いできた独自のノウハウを伝えている。SLCの背中を見てJLCが育っているといえる。SLCの中には青年太鼓(無双太鼓)を立ち上げた者もあり、地区内外で活躍している。親世代になった近年では、子ども太鼓の育成にも力を入れている。



【夏の水遊びでは全身ずぶ濡れに】

4 学校や地域との連携

近年、地方においても都市化や核家族化が進み、住民の地域社会の一員としての意識や連帯感の希薄化が生じている。地域で子どもを育てる環境は、十分とはいえない状況を将来的な地区の課題として捉え、地区住民の交流の場であり、学習活動や地域づくりの中心的施設である公民館を、「未来のまちづくり、子育て支援・青少年健全育成と若者の自立支援」の拠点として位置づけ、活動支援に取り組んできた。学校教育においても地域における学習や体験活動の充実に取り組んでおり、当地区には、東安居小学校・光陽中学校・福井工業大学(福井高校、福井中学校)があり、公民館事業のみならず地区の様々な行事にも積極的に参加していただいている。これからも内容の充実を図り、学習や体験活動の機会を増やし若者の地域参画を通じ、地区における未来の「まちづくり=人づくり」の実現をめざして学校や地域との連携を深めていきたい。

公民館は地域の身近な社会教育施設であることを認識し、特に、子育て支援や若者の地域参画に力を入れた事業を長年継続して展開し、大きな成果をあげられています。公民館が未来のまちづくりの拠点として、さまざまな活動に取り組まれている様子を紹介しました。

福井市の公民館のあゆみ（その3）

5. 昭和40年代の福井市の公民館活動（活性化かつ充実の時代）

昭和39年 不死鳥のねがい（福井市市民憲章）制定

災禍の中から早期の復興を成し遂げた「不屈の精神」と燃える「郷土愛」を精神的な支柱として、名称を「不死鳥のねがい」とし、副題を「福井市市民憲章」とする市民憲章が制定された。

公民館は市民憲章推進協議会の支部となり、市民憲章を公德心の高揚に努力するための手段としてその普及活動に奔走した。昭和43年の国体を控え、市民憲章の推進は公民館の大きな役割であった。市民の福井国体への関心と熱意は大きく、社会教育・公民館運動にも総ぐるみ・総参加を合言葉に組織化が強調された。団結力・組織化は公民館活動から生まれた時代であった。

地域の活動は、団体が中心となり公民館職員はその一員となって展開してきた。昭和40年から50年代は周辺部の町村の合併がさらに進み、小学校区単位の地区公民館が増加し、独立公民館の建設が相次いだ。

昭和47年 あたご・不死鳥ブロックの10館で主事が2名体制になる

昭和49年 福井市公民館職員体制整備計画発表

出張所（支所）職員に公民館職員の兼務辞令を発令

職員体制を整備し適正かつ効果的な公民館活動の促進を図るため、福井市公民館職員体制整備計画が発表され、出張所職員が公民館業務も担う兼務辞令が発令された。

公民館における事務処理が明確化され、職員体制や待遇についても段階的に改善されていった。公民館活動も地域に沿った課題やテーマを取り上げるようになり、公民館にとって活性化・かつ充実した時代となっていった。

6. 昭和50年代の公民館と地域活動（生涯学習の中核を担う）

昭和46年4月 社会教育審議会答申「急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方について」

昭和56年6月 中央教育審議会答申「生涯教育について」が出される

昭和40年にユネスコのポール・ラングランによって提起された「生涯教育」の考え方は、日本にも広く紹介されるようになった。昭和46年の社会教育審議会答申「急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方について」においても、生涯教育に果たす社会教育の役割が強調され、その中で公民館の新たな意義も提起されている。さらに、昭和56年6月に、中央教育審議会答申「生涯教育について」が出され国の生涯学習政策が本格化していった。

社会教育という言葉から生涯学習という言葉が、新しいものとして公民館活動の中に出てくるようになったが、生涯学習の中核をなすものは公民館であり、公民館活動に大きな変化はなく、各種学習活動のほかに、地域活動として体育祭や歩こう会、民謡大会、敬老会、文化祭、かるた会、年賀会など、地域全体の活動を支えてきた。また、リーダー研修や地域づくり事業など、公民館に求められる地域の人たちの要望も多種多様となり、公民館職員の仕事はますます多岐にわたるものとなってきた。

地域づくりの活動を展開するには、公民館と団体との連携が不可欠であるが、昭和50年代に入ると地域行事の中核をなしてきた青年団活動が低調化し、組織として残って活動している地域が少なくなってきた。既存の団体は自治会や老人会・婦人会、後は目的団体となっていった。そこで、これからの地域を活性化し、地域づくりの中核となる団体として壮年会の組織づくりが行政主導ですすめられ、公民館の働きかけで半数程度の地区で結成をみた。

昭和52年 順化公民館が優良公民館として文部大臣表彰を受ける

福井市の公民館としては初めての受賞であり、20年あまりにわたる公民館行政の努力の結果として記録されている。各種スポーツ大会、市政懇談会、若者のための教養セミナー、親子社会奉仕、納涼民謡大会、年賀会、地区公民館まつり、各種学級講座の開催など、地域活動の拠点として、各種趣味・教養習得の場としての活動と、婦人リーダー養成講座、子どもリーダー研修会、各コースに分かれた中央婦人学園や母親学級など中央公民館としての役割も含めた公民館活動が評価されたものであった。

公民館メールマガジンのご案内

福井市の全公民館でメルマガ会員を募集中です。
各公民館の「毎月の行事予定」「教室・催し」「お知らせ」
など月に1、2回メール配信が届きますので、ぜひご活用
ください。
空メールを送るだけで簡単に登録できます。

右のQRコードを読み取って
希望の公民館を選び、空メールを送信
↓
返信メールが届けば、登録完了です



※メルマガの登録は無料です。但し、メールの受信に要する
ポケット通信料は発生します。

<このようなメールが毎月届きます>

〇〇公民館〇月
行事予定のお知らせ☆♪

- 3日(木) 10:00~12:00
子育てサロン
「なんでも相談会」
- 12日(土) 13:00~
運転者講習会
「安全知識を習得しよう」
- 25日(金) 9:00~11:30
環境美化研修会
動きやすい服装でご参加
ください!
- 公民館まつり〇月〇日開催
展示作品を募集中!

第4号 掲載館

公民館名	住所	電話番号	メールアドレス
国見公民館	〒910-3402 福井市鮎川町195-7	(0776) 88-2004	kunimi-k@mx1.fctv.ne.jp
東安居公民館	〒918-8067 福井市飯塚町6-18	(0776) 35-9566	hiago-k@mx1.fctv.ne.jp
明新公民館	〒910-0062 福井市灯明寺町35-1-1	(0776) 22-7880	meisin-k@mx1.fctv.ne.jp

福井市の公民館 第4号編集委員

中央公民館運営審議会委員	稲田 勝子・中嶋貴美江
生涯学習室	吉岡 努
社会教育指導員	小林 修二・小西 信子
	吉田 郁子
中央公民館	平馬 吉隆・小清水直美
	田村 榮子・塩崎めぐみ

福井市の公民館 第3号の訂正とお詫び

2頁 上文殊公民館 左側の開田絵図の年号
誤) 天平神護(766年) → 正) 天平宝字3年(759年)



公民館の歌 (自由の朝)

山口晋一 作詞
下総皖一 作曲

快活に ♩ -104

一、 へ いわの はるに あたらしく
二、 こ ころの はなの に おやかに
三、 は たらく ものの や すらかに

きょうどを おこす よろこびも こうみんなの
きょうどに いきる たのしきも こうみんなの

つどいからとま けはあーうを こむなひ なつと やーかしき
つどいからとま けはあーうを こむなひ なつと やーかしき

にいい じぶあ うかすのの あいさすみら たくそ たよらう

公民館の歌 (自由の朝)
山口 晋一 作詞
下総 皖一 作曲

一、 平和の春に あたらしく
郷土を興す よろこびも
公民館の つどいから
とけあう心 なごやかに
自由の朝を たたえよう

二、 心の花の におやかに
郷土にひらく ゆかしさも
公民館の つどいから
希望を胸に 美しい
文化の泉 くみとろう

三、 働くものの 安らかに
郷土に生きる たのしさも
公民館の つどいから
まどいになごむ ひとときに
明日への力 そだてよう

公民館の歌 **自由の朝** について

昭和21年(1946年)7月、文部次官通牒により「公民館の設置」が奨励され、これを受けて9月には、「公民館設置促進中央連盟」が官民の協力で結成されました。

この連盟と毎日新聞社が、文部省後援により実施したのが、公民館活動の理念を示す「公民館の歌」の歌詞の全国募集です。全国からの1,017件の応募から作家の川端康成、文部省(当時)、日本放送協会、毎日新聞社、日本レコード協会などの代表による審査団によって選ばれたのが、この歌詞です。

なお、作曲者の下総皖一は明道中学校、藤島高等学校の校歌を作曲しています。

福井市の公民館

監修 福井市生涯学習室
発行 平成28年2月
福井市中央公民館
〒910-0858
福井市手寄1丁目4-1
TEL 0776-20-5459
FAX 0776-20-1538
Eメール: cyuou-k@mx1.fctv.ne.jp
<http://www1.fctv.ne.jp/~cyuou-k>